1　コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社

	各社の考え方
① 算定を行う背景・目的	● コカ・コーラ社製品の製造、物流、販売、回収、リサイクル等を担当する当社グループは、1都2府35県をカバーする国内最大のボトラー社であり、GHG排出量削減に向けて日本のコカ・コーラシステム*全体のサプライチェーン排出量を俯瞰した上で、日本コカ・コーラ㈱との緊密な協力体制のもと、効率的な戦略を策定し推進しています。 *日本のコカ・コーラシステムについてはスライド5_参考資料を参照 ● GHG排出量を「見える化」することにより、ステークホルダーとともに、GHG排出実績を把握・共有し、削減へ向けた対応策の検討をしていきます。
② 算定結果の活用方法	● CDPやDJSIをはじめとする各種調査、当社Webサイト、統合報告書の刊行物等で公開しています。 ● GHG排出量削減に向けた具体策の検討に活用しています。
③ 算定のメリット	● 製品のライフサイクルにおける各プロセスごとのGHG排出量が明確になり、当社グループが取り組むべき部分と、コカ・コーラシステム全体で取り組むべき部分が可視化されました。 ● 環境負荷の高いカテゴリーが把握でき、今後取り組むべき課題が明確になりました。
④ 社内の算定体制	● 当社グループにおいて清涼飲料事業の中核会社となるコカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社のサスティナビリティ企画部が主管となり、製造や物流、販売機材などの各部門と連携し、データの収集、算定に取り組んでいます。 ● 統合報告書*に掲載した一部の指標は、算定の妥当性に関して第三者による限定的保証を受けています。 *リンク先：https://www.ccbj-holdings.com/ir/pdf/ja/annual/2022/2022_all.pdf

2　コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社

	各社の考え方
⑤ **サプライチェーン排出量の削減に向けて**	● 日本のコカ・コーラシステムは、パリ協定ならびに科学的根拠に基づくGHG排出量削減目標に沿って、サプライチェーン全体のGHG排出量削減に取り組んでおり、2050年までにGHG排出量実質ゼロの達成を目指しています。当社は、中期非財務目標「CSV Goals」として、日本国内のバリューチェーン全体におけるGHG排出量を2015年比で、2030年までにスコープ1、2において50%、スコープ3において30%削減することを目指す目標を策定し、さまざまな取り組みを実施しています。 具体的には、2022年7月より、日本のコカ・コーラシステム最大級の保管・出庫能力を持つ自動物流センター「明石メガDC」の稼働を開始しました。これまで各セールスセンターで行ってきた仕分けやピッキング、在庫保管などの倉庫業務を段階的に集約し、お得意さまや各自動販売機までをエンド・ツー・エンドで高効率に製品をお届けする物流ネットワークを構築し、長距離輸送を削減することなどにより、GHG排出量削減に取り組んでいます。また、ストローや紙カップの蓋をプラスチック素材から紙製素材へ変更することによりプラスチック使用量の削減に取り組んでいます。さらに、当社の自動販売機横に設置しているリサイクルボックスから回収された使用済みアルミ缶を缶胴の原材料として使用する、アルミ缶の水平リサイクル「CAN to CAN」や物流過程で使用するパレット※1やシェル※2のリサイクル「パレットtoパレット」「シェルtoシェル」を積極的に推進し、原材料・資材の循環利用促進によるGHG排出量の削減に貢献しています。 ※1 製品の輸送や保管の際に使用される水色や黒色などの荷役台 ※2 瓶製品を入れるケース
⑥ **サプライチェーン排出量算定の課題**	● 基幹システムを導入し、集計業務などの効率を上げ、より精度の高いデータ収集をしていくこと
⑦ **その他（任意）**	

3　コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社

※GHG排出データ算出期間：2022年1-12月

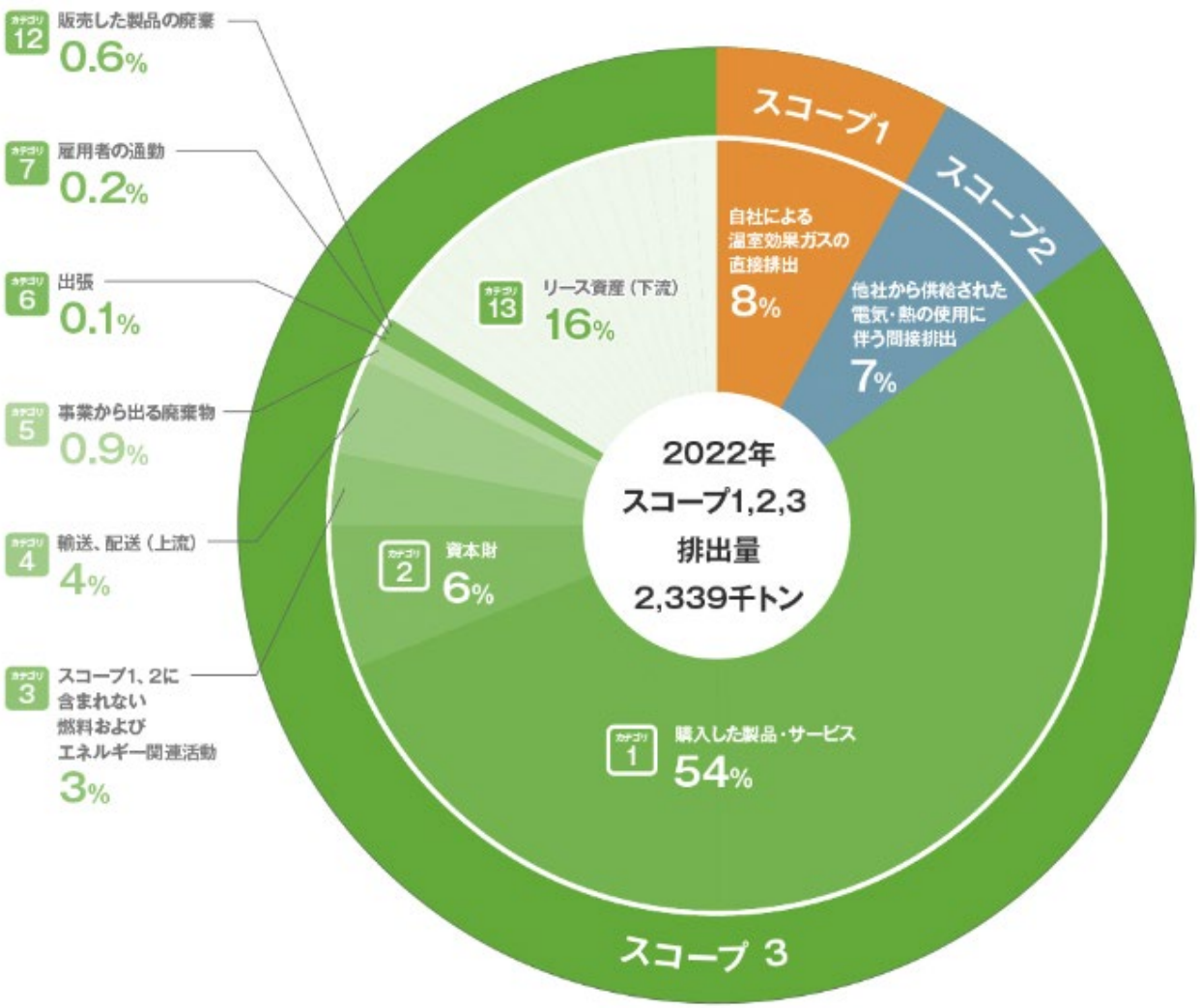
カテゴリ	算定方法　※算定対象期間 ： 2022年 1月 ～ 2022年 12月	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 原材料・資材の調達量（重量ベース）	● The Coca-Cola Company によるEmissions Factors に基づく
カテゴリ2「資本財」	● 固定資産額（有形・無形）の当年度新規取得額	● 資本財の価格あたりの排出原単位（※1:排出原単位データベース＜Ver.3.3＞）
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動」	● 燃料・電気・熱の使用量	● 燃料調達時の排出原単位（※1:排出原単位データベース＜Ver.3.3＞）
カテゴリ4「輸送、配送（上流）」	● 外部委託の輸送による燃料の使用量	● 出典:「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル(Ver.4.9)」（環境省・経済産業省（2023年4月））
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物処理・リサイクル委託費用	● 産業連関表ベースの排出原単位 (廃棄物処理（産業）)（※1:排出原単位データベース＜Ver.3.3＞）
カテゴリ6「出張」	● 社員の出張に伴う支払費用	● 交通費支給額あたりの排出原単位（※1:排出原単位データベース＜Ver.3.3＞）
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 社員の通勤に伴う支払費用	● 交通費支給額あたりの排出原単位（※1:排出原単位データベース＜Ver.3.3＞）
カテゴリ8「リース資産（上流）」	● 該当なし	● 該当なし
カテゴリ9「輸送、配送（下流）」	● 該当なし	● 該当なし
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● 該当なし	● 該当なし
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 該当なし	● 該当なし
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 容器包装リサイクル法に基づき申請した容器包装のリサイクル重量	● 廃棄物種類・処理法別の排出原単位（※1:排出原単位データベース＜Ver.3.3＞）
カテゴリ13「リース資産（下流）」	● 販売機材（自動販売機、クーラー、ディスペンサー）の電力使用量	● 販売機材1台当たりの年間電力使用量に当年度の稼働台数を乗じて算出。（※2）
カテゴリ14「フランチャイズ」	● 該当なし	● 該当なし
カテゴリ15「投資」	● 該当なし	● 該当なし

※1:サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース＜Ver3.3＞　※2:電気の排出係数は一律0.435kg-CO_2/kWhを採用

4　コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社

※GHG排出データ算出期間：2022年1-12月

サプライチェーン排出量算定結果



GHG排出実績（t-CO_2e）

スコープ１	：	190,313
スコープ２	：	166,593
スコープ３	：	1,982,063
総量	：	2,338,969

5　コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社

参考資料

＜日本のコカ・コーラシステムの全体図＞